

重点プロジェクト計画概要一覧表（九州・沖縄）（令和５年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
福岡県	1	農業トップランナーの育成	R4 ～ 8	経営	経営発展に意欲のある農業経営者を対象に、事業計画を実行する上での課題解決を目的に、スマート農業、マーケティング、人材育成等のテーマ別選択制の講座を開催する。 あわせて、講座受講後の継続した個別フォローによって、経営目標達成、先進的な農業経営を実現させ、本県農業を牽引するトップランナーの育成を図る。	・民間企業（農機メーカー、流通事業者、経営コンサルタント等） ・農研機構 （講座における農業者への指導・助言） ・普及指導センター （講座受講支援、個別フォロー）	
福岡県	2	農業法人の育成・経営力強化	R4 ～ 8	野菜、普通作、花き、果樹、畜産、茶	実効性の高い経営計画の策定支援や異業種等との連携、外部専門家を活用した個別コンサルティングの実施により、法人経営体の経営発展に向けた取り組みを支援する。	・民間企業、経営コンサルタント等（法人のニーズに応じた専門家派遣による経営改善の支援）	
福岡県	3	農業DX・スマート農業技術導入による経営発展	R4 ～ 8	稲作、普通畑作物、野菜、果樹、花き	水田農業では、米・麦・大豆の営農体系にスマート農業機械を導入し、効率的な技術等の実証及び効果的な活用方法を検討する。 麦では、デジタルデータを活用した収量・品質の向上に向け、現地実証を行い栽培管理マニュアルを作成し、経営規模拡大や経営発展に繋げる。 施設園芸では、IoT等のスマート技術の導入支援や実証試験を継続して行い、高品質・高収量・省力化を実現することで農業者の経営規模拡大や経営発展に繋げる。	・普及指導センター（実証ほの設置、データの収集・解析・結果検討、環境制御グループ支援） ・水田農業振興課、園芸振興課（普通作、園芸品目生産振興施策の実施） ・農林業総合試験場（技術情報の提供） ・JA全農ふくれん（各産地への推進）	
福岡県	4	環境に配慮した農業生産の普及推進	R4 ～ 8	水田農業、野菜、花き、果樹	環境負荷の低減による持続可能な農業生産体制の構築 ①水田農業部門では、JAや普及指導センターと連携して現地実証試験を実施し、被覆肥料の難分解性被覆資材の流出防止対策を推進する。 ②野菜、花き、果樹部門では、農林試が作成したIPMマニュアル等により、普及指導センター、JAの現地実証試験を農林業総合試験場と連携して支援することで、IPM技術の定着と普及を図る。	・JA、ふくれん、普及指導センター（実証ほの設置、調査、成績検討など） ・普及指導センター（現地実証試験の実施、データ収集、解析、結果の検討） 農林業総合試験場（技術情報の提供、実証試験調査の支援など）	該当なし
福岡県	5	大豆「ちくしB5号」の普及推進	R4 ～ 7	普通畑作物	大豆「ちくしB5号」は、播種適期幅が広く、耐倒伏性に優れ、多収であり、主要品種の「フクユタカ」にかわる品種として期待されている。令和4年からは本格的に作付けが始まり、今後普及拡大を進める必要がある。そのために、計画的な優良種子の確保と栽培マニュアルを活用した安定栽培技術の確立を図る。	・普及指導センター（実証ほの設置、生育調査等） ・水田農業振興課（生産振興施策の実施） ・農林業総合試験場（技術情報の提供）	
福岡県	6	「福岡の果樹」の生産拡大のための人材育成	R5 ～ 7	果樹	新規就農者および収量や品質が不十分な生産者に対して、スマートグラス、アイカメラ等を活用して高品質な果実の安定的に生産できる熟練の技の習得を図り、「福岡の果樹」生産拡大に寄与する人材を育成する。	・普及指導センター（生産現場技術対応） 経営技術支援課（進捗管理） ・JA全農ふくれん（関係機関との連絡調整）	
福岡県	7	大苗を用いた秋出しトルコギキョウの栽培技術の普及	R4 ～ 5	花き	トルコギキョウにおける安定した生産技術を確立するため、福岡県の関係機関、JA全農ふくれんなどの関係者が連携し、「大苗を用いた秋出しトルコギキョウの安定生産技術の普及」に取組み、実需者ニーズに応じた計画的な安定生産体系を構築する。	○産地育成検討会議（進捗管理） 経営技術支援課、県園芸振興課、JA全農ふくれん ○トルコギキョウプロジェクト（展示ほ設置、マニュアル作成検討） 経営技術支援課、園芸振興課、JA全農ふくれん、県内7普及センター	生産体制・技術確立支援事業
佐賀県	8	佐賀さいこう農業経営体育成	R3 ～ 7	経営	重点農業者へ個別支援を実施し、経営改善計画の策定と継続的な支援による経営発展を図り、10年後に販売金額1億円(肥育は3億円)以上を目指す農業者を育成する。また、本県の農業産出額の向上につなげる。	・振興センター ・農業経営相談所 ・市町 ・JA ・政策金融公庫 ・その他の機関・団体 ・試験研究機関 ・農業経営課 ・その他農政関係各課	・農業経営者サポート事業（国庫） ・佐賀さいこう農業経営体育成プロジェクト対応事業（県庫）
佐賀県	9	「さが園芸888運動」実践プロジェクト	R5 ～ 8	野菜、果樹、花き、経営、就農	佐賀県で取り組む「さが園芸888億円運動」の目標を達成するため、各振興センターで園芸振興に向けた課題を設定。本県の農業産出額の向上につなげる	・振興センター ・JA ・市町 ・その他の機関・団体 ・試験研究機関 ・農業経営課 ・その他農政関係各課	さが園芸888億円推進事業費
長崎県	10	スマート農業の展開による若者から「選ばれる」、魅力ある農林業・暮らしやすい農山村の実現①	R3 ～ 7	スマート農業 稲作	○離島・中山間地域が多い本県において、急速に進む農業従事者の高齢化等により担い手の減少が進む中、新規就農者など多様な担い手を農業に呼び込み、農業者の所得向上と産地の維持拡大を図るため、農業者のニーズに対応した新技術の研究開発および地域特性にあった技術の改良・実証を前進化させ、開発された先端技術を現場に速やかに普及させる必要がある。 ○農産分野では、ドローン・アシスト付農機を中心に地域・品目の特性や経営規模に応じて ・地域段階でのスマート農業推進体制の整備 ・農林業従事者のICTスキルの向上 ・スマート農業の実証・普及の取り組み推進を実施し、その成果を幅広く情報発信することにより、県内のスマート農業技術の普及を加速化させる。	○振興局（普及指導センター）、農業イノベーション推進室、農林技術開発センター ○各市町 ○全農、各JA、共済組合等 ○地域農業振興協議会等 ○関係企業等	○ながさき型スマート産地確立支援事業
長崎県	11	スマート農業の展開による若者から「選ばれる」、魅力ある農林業・暮らしやすい農山村の実現②	R3 ～ 7	スマート農業 野菜 果樹 花き 茶	○離島・中山間地域が多い本県において、急速に進む農業従事者の高齢化等により担い手の減少が進む中、新規就農者など多様な担い手を農業に呼び込み、農業者の所得向上と産地の維持拡大を図るため、農業者のニーズに対応した新技術の研究開発および地域特性にあった技術の改良・実証を前進化させ、開発された先端技術を現場に速やかに普及させる必要がある。 ○園芸分野では、環境制御技術を中心に地域・品目の特性や経営規模に応じて ・地域段階でのスマート農業推進体制の整備 ・農林業従事者のICTスキルの向上 ・スマート農業実証・普及の取り組み推進を実施し、その成果を幅広く情報発信することにより、県内のスマート農業技術の普及を加速化させる。	○振興局（普及指導センター）、農業イノベーション推進室、農林技術開発センター ○各JA ○各市町 ○地域農業振興協議会、花き振興協議会 ○実証コンソーシアム、関係企業等	○ながさき型スマート産地確立支援事業 ○ながさき農業デジタル化促進事業
長崎県	12	スマート農業の展開による若者から「選ばれる」、魅力ある農林業・暮らしやすい農山村の実現③	R3 ～ 7	スマート農業 畜産	○離島・中山間地域が多い本県において、急速に進む農業従事者の高齢化等により担い手の減少が進む中、新規就農者など多様な担い手を農業に呼び込み、農業者の所得向上と産地の維持拡大を図るため、農業者のニーズに対応した新技術の研究開発および地域特性にあった技術の改良・実証を前進化させ、開発された先端技術を現場に速やかに普及させる必要がある。 ○畜産分野では、牛群管理システムを中心に地域の特性や経営規模に応じて ・地域段階でのスマート農業推進体制の整備 ・農林業従事者のICTスキルの向上 ・スマート農業の実証・普及の取り組み推進を実施し、その成果を幅広く情報発信することにより、県内のスマート農業技術の普及を加速化させる。	○振興局（普及指導センター）、農業イノベーション推進室、畜産課、農林技術開発センター ○各JA ○各市町 ○地域農業振興協議会	○ながさき型スマート産地確立支援事業

重点プロジェクト計画概要一覧表（九州・沖縄）（令和5年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 （複数可）	活動計画の要約	連携機関 （役割分担）	活用事業
熊本県	13	グリーンな病虫害防除体系の構築支援	R2 ～ 5	病虫害、野菜	【背景・ニーズ】 ・農薬の使用頻度が高い品目では、病虫害の薬剤抵抗性が発達し、防除が困難となっている。 ・グリーンな栽培体系への転換に向けては、現地の栽培において、科学農薬の低減と難防除害虫の対策を両立させる必要がある。 【活動の概要】 ・ウイルス保毒虫発生存長調査支援 ・トマト天敵実証調査支援 ・キュウリ天敵実証調査支援	農業普及・振興課、農業革新支援センター、農業研究センター、病虫害防除所、ＪＡ、市町村	病虫害発生予察事業、（県）地下水と水を育む農業総合推進事業
熊本県	14	土壌の理化学性診断による生育改善のための支援体制づくり	R2 ～ 5	土壌肥料、花き、野菜、水稲、病虫害	【背景・ニーズ】 ・普及指導員等の若返りによる生育障害等に対する経験不足 ・普及指導員等の若返りによる土壌診断スキルの不足 ・土壌環境のリアルタイム把握は難しく勘と経験に頼る肥培管理 【活動の概要】 ・現場における土壌診断および改良支援 ・普及職員研修の実施（土壌断面調査の実践、土壌化学性診断） ・土壌水分等センサーの活用状況調査・支援	農業普及・振興課、農業革新支援センター、ＪＡ	（県）地下水と土を育む農業総合推進事業、新規需要米総合推進事業、（県）熊本県野菜振興協会関連事業、土づくりコンソーシアムの取組み
熊本県	15	地域営農組織の運営支援	R2 ～ 5	稲作、花き、普及指導活動、野菜、経営	【背景・ニーズ】 ・地域営農の支援は多くの地域において個別縦割りで行われており、課題の明確化や地域間での情報の共有が不十分である。 ・地域営農組織では、組合員の高齢化の進行、組織によっては経営収支が厳しいなど転換期をむかえており、組織運営や課題が多様化し、より高度な支援活動が求められている。 【活動の概要】 ・普及指導員研修 ・普及指導員向けマニュアル作成のための情報収集 ・モデル組織への支援活動	農業普及・振興課、農業革新支援センター、農地・担い手支援課、農産園芸課、ＪＡ、市町村	農地集積加速化事業、担い手確保・経営強化支援事業
熊本県	16	中山間地域農業振興に向けた普及指導スキルの強化	R2 ～ 5	花き、普及指導活動、経営、野菜、茶	【背景・ニーズ】 ・若い普及指導員が多いため、地域振興に携わった経験が浅く、地域の話し合いの場でどう助言したらよいのか悩んでいる。 ・中山間地域の農業振興に当たっては、普及組織がリーダーシップを発揮し、地域をコーディネートしていく必要があるが、情報やノウハウが不足している。 【活動の概要】 ・むらづくり課と連携した実効性のある研修の実施 ・中山間地区のビジョン策定と推進支援のための調査研究 ・中山間農業モデル地区の高収益作物導入に向けた活動支援	農業普及・振興課、農業革新支援センター、むらづくり課、農産園芸課、ＪＡ、市町村	（県）中山間農業モデル地区支援事業
熊本県	17	部門横断的普及指導体制づくりの推進	R2 ～ 5	普及指導活動	【背景・ニーズ】 ・農業の現場は、担い手の減少や高齢化、消費者ニーズや流通の多様化に加え、みどりの食糧戦略等の新たな施策の推進も始まり、普及指導活動も高度化している。 ・普及指導員やＪＡ営農指導員の若返りが進む等、指導力の低下が懸念される。 【活動の概要】 ・調査研究プロジェクトチーム（普及振興計画の作り方）連携会議の開催 ・普及振興計画作成の見える化資料集の作成	農業普及・振興課、農業革新支援センター	
熊本県	18	各専門品目担当者の経営指導力アップ	R2 ～ 5	経営	【背景・ニーズ】 ・若手の技術担当普及員は、農業経営に係る知識および経験が不足しているため、経営改善につながる支援活動があまり展開されていない。 ・経営規模の拡大や雇用を伴う経営、地域営農組織の法人化など農業経営の高度化に伴い、普及員の技術部門担当も栽培技術と併せて、農家から経営支援活動が求められている。 【活動の概要】 ・若手普及員を対象とした農業経営研修を実施 ・経営と技術担当を対象とした経営研修の実施 ・農業普及・振興課内における若手普及員への経営改善指導活動の支援	農業普及・振興課、農業革新支援センター	
熊本県	19	大規模地域営農法人における低コスト栽培実証とくまさんの輝きの収量、品質向上技術の拡大	R2 ～ 5	稲作、スマート農業	【背景・ニーズ】 ・本県育成の良食味品種「くまさんの輝き」面積拡大が進んでおり、今後更に作付拡大すると安定収量の確保や品質の維持が難しくなることが懸念される。 ・農家の大規模化が進み、大規模農業機械の導入生産コストが上昇している。一方でスマート技術利用による低コスト栽培技術の導入はなかなか進んでいない。 【活動の概要】 ・「くまさんの輝き」展示ほ設置 ・グレーンドリル播種による低コスト技術実証ほの設置	農業普及・振興課（熊本・球磨）、農業革新支援センター、ＪＡ、市町村、ＪＡ経済連、全集連、農業研究センター、米卸、外食産業等	（県）くまもとの米・麦・大豆魅力発信・競争力強化事業、（県）新規需要米総合推進事業、全国農業システム化研究会現地実証調査事業
熊本県	20	スマート農業技術実践による野菜産地の活性化	R2 ～ 5	野菜、経営、土壌肥料、作物、普及方法	【背景・ニーズ】 ・スマート農業技術は研究開発途中のものも多く、現場で活用するには「何が利用できるのか、どのように利用するのか」等ソフト面の整理が必要であり、普及指導員が個人で対応するにはハードルが高い。 ・特に①施設野菜では、環境制御機器等が導入されつつあるが、利用技術が確立していない。②露地野菜では、機械化による省力化のための課題の把握・整理ができていない。 【活動の概要】 ・施設野菜：モニタリングデータ活用実証ほの設置と検討会実施 ・露地野菜：ニンジン、ホウレンソウ、パレイシヨにおける省力化の事例調査	農業普及・振興課、農業革新支援センター、農産園芸課、農業研究センター、ＪＡ熊本経済連	（県）園芸生産総合対策推進事業、（県）露地野菜生産拡大対策事業
熊本県	21	冬春トマトの所得の最大化	R2 ～ 5	野菜、土壌肥料、病虫害、経営	【背景・ニーズ】 ・冬春トマトでは、販売単価低迷のために販売金額が減少、資材高騰や労働費の増加等による経費の上昇、それらによりトマト農家の経営が悪化している。この局面を打開するためには、生産面と経営面の両方から改善して所得を最大化する必要がある。 ・令和3年度産では秋期の黄化葉巻病、裂果の多発により生産に大きな影響が見られ、対策が急務となっている。 【活動の概要】 ・「等級」：黄変果・小玉果対策…R3展示ほ及び現地での対策の事例調査（効果確認） ・「等級」「階級」：黄化葉巻病・裂果対策…現地での対策の事例調査（効果確認） ・経営分析システム活用事例調査	農業普及・振興課（冬春トマト主産地）、農業革新支援センター、農産園芸課、農業研究センター、ＪＡ熊本経済連、市町村、ＪＡ	（県）くまもとトマトリノベーション推進事業、（一社）熊本県野菜振興協会協会事業
熊本県	22	果育成いちご品種「ゆうべに」の生産拡大	R2 ～ 5	持続可能な農業、野菜、土地利用型作物	【背景・ニーズ】 ・平成27年から「ゆうべに」の現地普及を図っている。販売や所得向上などの導入メリットがあるものの、近年は戸数や面積は伸び悩んでいる。その要因として、以下のことが挙げられる。 （１）過度な連続出荷・着果過多により成り疲れや出荷の山谷が発生しやすく、収量・品質が安定しない。 （２）高設栽培で導入が進んでいない。 【活動の概要】 ・プロジェクト会議の実施 ・技術検討会の開催 ・調査研究（優良事例調査等） ・実証展示ほ調査支援	農業普及・振興課（全域）、農業革新支援センター、農産園芸課、流通アグリビジネス課、農業研究センター、ＪＡ熊本経済連	（県）「ゆうべに」生産拡大事業
熊本県	23	施設栽培デコボン合格率向上による経営安定	R2 ～ 5	果樹、経営、普及指導活動、土壌肥料、病虫害	【背景・ニーズ】 ・不知火類（デコボン）の施設栽培では、樹齢16年以上の園が40％程度と多く、密植や高木化による品質低下・収量減少が問題となっている。 ・また、夏秋期の高温や長雨により糖度が安定せずデコボン合格率が低下する年が頻繁となり、農家所得の減少を招いている。 【活動の概要】 ・モデル展示ほの調査支援 ・現地検討会 ・調査研究に係る検討会 ・生産対策会議	農業普及・振興課（熊本、宇城、芦北、天草）、農業革新支援センター、農産園芸課、農研センター（果樹研究所、天草農業研究所）、ＪＡ熊本果実連、ＪＡ、市町村	（県）園芸生産総合対策推進事業

重点プロジェクト計画概要一覧表（九州・沖縄）（令和５年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
熊本県	24	茶生産者との連携強化によるオリジナル商品開発の推進	R3 ～ 5	都道府県が定める分野（茶）	【背景・ニーズ】 ・茶生産者の収入の柱となっているリーフ茶（急須で淹れるお茶）の消費の減少により、茶価が長期的に低迷している ・様々な飲料が流通販売されており、茶製品との競合が進んでいる。また、嗜好の変化、健康志向、簡便志向など消費ニーズが多様化している。 【活動の概要】 ・商品開発体制の周知活動及び情報交換ネットワークの構築支援、情報提供 ・特徴のある商品づくりのための栽培指導と試作品製造	農業普及・振興課（宇城、上益城、鹿本、菊池、芦北、球磨）、農業革新支援センター、農産園芸課、農研センター（茶業研究所）、J A	（県）くまもと茶ビジネス確立支援事業
熊本県	25	肉用牛における発酵TMRの生産・利用の推進	R2 ～ 5	畜産	【背景・ニーズ】 ・肉用牛農家においては飼料費の高どまり、飼養管理の担い手が不足 ・肉用牛向けの発酵TMRの製造、給与、生体に及ぼす影響、肥育成績に関する知見が少なく現場への推進が難しい。 【活動の概要】 ・交雑種肥育において、現地実証試験の発育調査 ・原料の異なるTMRの飼料分画調査4回、消化性の評価 ・NW大津において在庫管理システム構築を支援	農業普及・振興課（菊池、阿蘇、天草）、農業革新支援センター、農研センター（畜産研究所、草地畜産研究所）、家畜保健所（城北、天草）、J A、畜産農協	革新的技術開発・緊急展開事業、農林水産業未来プロジェクト助成事業
熊本県	26	宿根カスミノウ産地の維持発展に向けたモデル構築	R5	花き	【背景・ニーズ】 ・熊本では昭和50年代から宿根カスミノウの産地化が進み、生産量全国一を維持し続けている。 ・近年、生産者の高齢化と減少が進展しており、産地維持に係る方策が必要。 【活動の概要】 ・モデル展示ほの調査支援 ・現地検討会 ・調査研究に係る検討会 ・生産対策会議	農業普及・振興課（菊池）、農業革新支援センター、農産園芸課、農業研究センター、JA経済連、地域J A、市町村	（県）くまもとの花ステップアップ事業
大分県	27	キク経営体強化による産地の活性化	R1 ～ 5	花き	○地域の現状と課題 ・担い手の確保、育成が進む反面、離農、規模縮小も見られる。 ・大規模経営体や若手生産者の経営安定や省力化が課題 ○目標を達成するための活動手法 ・若手生産者等の経営安定を図るため、計画生産や経営等指導等を行う。 ・省力化を図るための技術開発に取り組む。	○関係機関との役割分担 ・農業団体と連携し、計画生産指導等を行う他、市場ニーズの把握や県外産地の情報収集、提供に取り組む。	
大分県	28	実需ニーズに対応した先駆的な大規模茶園経営体の育成	R1 ～ 5	普通畑作物（茶）	○地域の現状と課題 ・ドリンク茶向け茶園は面積拡大が進み、加工場も整備されつつある。 ・生産性や品質適合率が低く、雇用者定着等の課題もある。 ○目標を達成するための活動方法 ・中間管理機構等と連携した農地造成や土層改良指導等を行う。 ・組織運営指導、JGAP取得支援等を通じた経営改善指導を行う。	○関係機関との役割分担 ・関係市と茶園造成や茶工場整備等の産地ビジョン作成を行い、協同して取組推進にあたる。 ・その他、中間管理機構等とも土層改良等において協力体制を構築する。	
宮崎県	29	超省力・高収益のためのスマート農業技術の普及	R3 ～ 7	スマート農業	スマート農業等を活用して経営改善を目指す農業者に技術・経営支援を行いながら経営改善を支援するとともに、導入した技術ごとに導入効果等を検証する。 各農業改良普及センターと連携しながら各地域の生産部会等に情報提供や研修会等を行うことにより新技術等活用の理解を深める。	・関係普及センター、J A、試験研究機関などと連携し、スマート農業等新技術の検証するとともに、農業者へ情報提供等を行う。	
宮崎県	30	実需者から信頼されるスイートピー産地づくり	R3 ～ 7	花き	気候変動に伴い、スイートピー生産が不安定になっていることから、数量・品質安定化に資する取組の産地への定着を目指すことで、国内外の実需者から信頼される産地作りを支援する。	・普及センターやJ A、生産部会との連携により、実態把握を行う。	
宮崎県	31	競争力のあるみやざき茶産地の育成	R3 ～ 7	特用作物	競争力のある茶産地の育成を目指し、「産地再編」をキーワードに、販売力の強化、マーケットニーズに対応した生産体制の確立、生産体制の共同化、効率化、低コスト化に取り組む。	・普及センターや経済連、J A、生産部会などと連携し、流通や生産の実態調査や、地域の生産体制の検討、各種研修などを行う。	
宮崎県	32	宮崎らしい垂熱帯果樹（マンゴー、ライチ）の生産安定と拡大	R3 ～ 7	果樹	マンゴーの販売額を向上させるため、後期出荷作型の安定生産とあざ果対策によるA品率向上を目指す。また、マンゴーに続く品目としてライチの出荷量を増加させるため、反収向上に取り組む。	・普及センター、J Aおよび生産部会と連携し展示ほや現地調査、研修会を行う。 ・農業試験場や生産振興部署と連携し、安定生産技術の確立を目指す。	
宮崎県	33	環境制御技術を利用した施設きゅうりの高度化の検討	R3 ～ 7	野菜	施設きゅうりにおける環境モニタリングの可視化手法の検討を行いながら、環境条件と作物生育の関係を植物生理に基づく解析することで、環境制御技術を県下全体に波及させるための取り組みを行う。	・関係普及センター、JA、農試などと連携し、各地域の普及計画と連動した検討を行う。	（県）みやざき農業DXスタートアップ事業 （国）国際競争力強化技術開発プロジェクト
宮崎県	34	露地野菜の生産安定による信頼される産地の育成	R3 ～ 7	野菜	畑かんを活用した計画的な播種や出荷予測システム活用による安定的な収穫を行うことによる粗収益の向上を目指す。また、本県産のさといもの評価を上げるため、優良系統の種芋供給体制の確立を目指す。更に、サツマイモ基腐病の対策を実施することにより、生産安定を目指す。	・関係普及センター、JA、農試、本庁各課等と連携し、現地展示ほ等を通して検討を行う。	（国）甘味資源作物生産性向上事業 （県）かんしょ・さといも病害対策強化事業
宮崎県	35	生産性向上による持続可能な肉用牛産地の育成	R3 ～ 7	畜産	肉用牛繁殖の生産性向上のために、生産性向上に取り組む農家やグループに対し、産地分析等を活用し、課題抽出を行い、課題解決に向けた取り組み支援を実施することで、母牛の分娩間隔の短縮や子牛事故率の低減の生産性向上を目指す。	・関係普及センター、JA、NOSAI等と連携し、各地域の普及計画と連動した検討を行う。	
宮崎県	36	“農の魅力を生み出す”人材の育成と支援体制の構築	R4 ～ 7	就農	次代を担うみやざきアグリブレイヤーの確保・育成と産地サポート機能を有する新たな体制の構築のため、新規就農者の早期経営安定、若手女性農業者の活性化、技術・経営資源の円滑な承継のための手法の習得、多様な雇用人材が確保できる経営体の育成に取り組む。	・普及センター、みやざき農業実践塾、農業振興公社、農業法人協会との連携により、担い手の育成と定着を図る。	
宮崎県	37	持続可能な土地利用型大規模経営体の育成	R4 ～ 7	作物、普通畑作物、野菜	土地利用型農業を支える大規模経営体を対象に経営シミュレーションの実施、経営改善計画（アクションプラン）の提案と実現に向けた支援等を行うことで、生産性や収益性の高い経営体を育成する。	・関係普及センターや本庁各課と連携しながら、土地利用型農業の大規模経営体の支援手法の確立を図る。	
鹿児島県	38	水田利用による高収益作物の定着支援	R3 ～ 5	作物、普通畑作物、野菜	○現状と課題 本県水田の耕地利用率は97.4%、乾田率が65%と他県に比べ低く、集落営農法人等による水田での野菜等では収益が十分に上がっていない。 ○目標を達成するための活動方法 1. 排水対策作業機械の導入及び機械利用体制の構築 2. 水田利用作物の実証・展示活動を通じた水田の高収益化の推進 3. 水田利用作物導入の経営評価	・地域振興局農政普及課及び関係機関と連携しモデル地区での高収益作物の実証・展示、普及の支援を行う。	（県）生産性の高い水田農業確立推進事業
鹿児島県	39	環境制御技術の普及推進による施設野菜の生産性向上	R3 ～ 5	野菜 スマート農業 生産管理工程 経営	○現状と課題 施設野菜経営においては、生産者の高齢化に対応した作業の合理化や省力化、安定的な生産性の向上が課題である。 ○目標を達成するための活動方法 1. 高齢化に対応した作業の合理化や省力化、安定的な生産性向上のためのスマート農業の推進。 2. 普及指導員や関係機関・団体職員等を参集した推進検討会の開催や、継続的な実証活動を通じてスマート機器の導入推進。	・普及組織を中心とした関係機関と連携し実証農家を支援。 ・メーカー等に対して情報分析やトライアルの提供を依頼。	（県）「稼ぐ力」を引き出すスマート農業普及展開事業

重点プロジェクト計画概要一覧表（九州・沖縄）（令和5年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
鹿児島県	40	サツマイモ基腐病の総合的な防除対策の推進	R4 ～ 7	普通畑作物、持続可能な農業	○現状と課題 県内の主要産地においてサツマイモ基腐病が多発し、大きな減収要因となっている中、県では令和3年度にサツマイモ基腐病対策アクションプログラムを策定した。県・地域サツマイモ基腐病対策プロジェクトチーム（P T）では、「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」対策の総合的な取組を推進している。健全苗の確保と複数年さつまいも栽培を行っていないほ場に作付けを推進することで、令和7年産には健全苗に対応したほ場面積10,000haを目指す。 ○目標を達成するための活動方法 1. P Tを活用した効率的な防除指導 2. 展示を活用した総合的防除対策の推進 3. 研究事業への参画・支援 4. 健全苗に対応したほ場の確保の推進	○関係機関との役割分担 ・研究機関で新たに開発した防除技術が早期に移せるよう連携・調整を行う。 ・普及組織では、総合的な防除対策について展示等に取り組み、技術の普及に努める ・総合的防除対策を推進するため、行政施策や現地情報の共有化を図り、行政機関と普及組織の橋渡しを行う。	(県)サツマイモ基腐病対策推進事業
鹿児島県	41	自給飼料に立脚した畜産経営の確立	R5 ～ 7	畜産 都道府県が定める分野（農業機械） 経営	○現状と課題 配合飼料と粗飼料の一部を海外に依存しており、近年の配合飼料及び輸入粗飼料の高騰は、畜産経営に収益性の悪化など深刻な影響を及ぼしていることから、飼料自給率の向上が急務となっている。そこで自給飼料の生産拡大に関する新品種、新たな作型等の実証に取り組む。 ○ 目標を達成するための活動方法 1 現地実証活動（高収量、新品種、飼料用稲、未利用資源等） 2 実証農家の経営改善支援 3 導入拡大検討会の開催 4 実証技術の波及拡大に向けた課題整理	・普及組織を中心とした関係機関と連携し実証農家を支援。	(県)地域資源フル活用飼料増産対策事業(県単)
鹿児島県	42	肥料価格高騰対策に向けた施肥技術の確立	R5 ～ 7	持続可能な農業 普通畑作物 水稲 露地野菜 都道府県が定める分野（茶業） 経営	○現状と課題 近年、肥料費高騰により、農業経営の悪影響が懸念されている。このため肥料費高騰に対応した、新たな施肥技術の確立が課題となっている。 ○目標を達成するための活動方法 化学肥料削減の取組の実態把握、課題の整理および技術導入に向けた課題整理を行うとともに、農業者、関係機関・団体と連携した化学肥料低減肥料の波及に向けた技術実証を行う。	・普及組織を中心とした関係機関と連携した実証農家等への各種支援。 ・メーカー等に対し肥料開発のための実証結果の情報提供。	(県)みどりの食料戦略システムに対応した環境負荷低減技術の開発
沖縄県	43	花き栽培産地の農業振興とリーダー育成	R2 ～ 5	園芸（花き）	○地域の現状と課題 ・恩納村喜瀬武原はキク、切り葉類が盛んな花き産地であり、若手の担い手も多く、自主活動が活発である。 ・農家間の経験年数にばらつきがあり、地区の課題が多岐にわたり、絞り込みが必要である。 ○目標を達成するための活動方法 ・農家、農業士との意見交換会、研修会等の開催による産地リーダー育成 ・農薬ローテーション等の講習会や現地検討会の開催。防除作業の省力化技術の検討	恩納村、J A北部地区営農センター、沖縄県花卉農協、北部花卉、生産農家代表、喜瀬武原区長、北部農業改良普及課 園芸振興課、農業革新支援専門員	地域農業振興総合指導事業